

	<p>串木野中学校教頭通信</p> <p>Kyo to correspondence</p> <p>～当たり前のことを当たり前～</p>	<p>第43号</p> <p>令和6年 2月22日(木)</p> <p>いちき串木野市立串木野中学校教頭 文責 長岡</p>
---	---	--

目に見えないものを大切に

今日は2月22日です。何の日か知っていますか？そう！「ニャンニャンニャン」の日ですね。そこで今回は「ねこ」が主役の童話を紹介したいと思います。

皆さん「100万回生きたねこ」はご存じでしょうか？

誰かを大切に想うってこんなにも素敵なこと。100万回生きてようやく気づいたねこのお話。

主人公の名前は「ねこ」。
 彼は100万回も生まれかわりを繰り返していました。
 ある時は王様に飼われているねこだったり、
 船乗りに飼われていたり、
 サークス用だったり、泥棒だったり、
 お婆さんに飼育されていたり。
 100万人の人と共に暮らしました。
 飼い主になった人はいつもねこが好きで、
 彼が亡くなる度に、みんな悲しくて涙を流しました。
 でも、ねこはただの一度も飼い主を好きになりませんでした。
 そしてある時、彼は初めて、誰にも飼育されていない「のらねこ」になりました。
 立派なとらねこに生まれかわったため、
 たくさんのメスねこ達が彼の元にやってくる、
 仲良くしようとしました。
 でも、彼が好きになったのは、
 自分のことを見向きもしなかった白いねこ。
 彼等は両想いになって、子どもも育てました。
 でもある日、白いねこは静かに動かなくなりました。
 彼は初めて涙を流し、
 彼もまた、彼女の隣で、静かに動かなくなりました。
 そしてねこは、
 もう生まれかわることはありませんでした。

それまで心を開かずに虚栄心のみで生きていたねこが、自分以外に興味を惹かれて恋をして家族を持ち、長い生涯の果てに大切なものを亡くすことで、はじめて愛を知り悲しみを知る…という、シンプルですが奥深いストーリーです。

当たり前ですが、読む人によっては感じ方が違うと思います。基本的には100万回の命より、ただ1度の愛,,、自分が大好きで、自分以外を省みることをしなかったねこが、自分よりも大切なねこができ、そのねこのために生きることで、優しさや愛を知り、充実した生涯を全うしたという考え方でしょうか。

大切なものは愛であったり友情であったり人間の持つ尊い感情など、目に見えないものが多いです。何かと比べたりせず、相手を思いやる心こそ「本当に大切なもの」なのではないでしょうか。この物語は「自分以外を思いやること」で、意味のある生涯を送ることの素晴らしさを説いていると感じました。

皆さんも「100万回生きたねこ」を読んで、今、どんな風に感じたか…聞かせてもらえたらうれしいです。

**人を見るとき大切ななのは、
見えるものより見えないもの。
思いやり、純粹さ、
素直さ、優しさ…。
目に見えない人間性を大切に。**